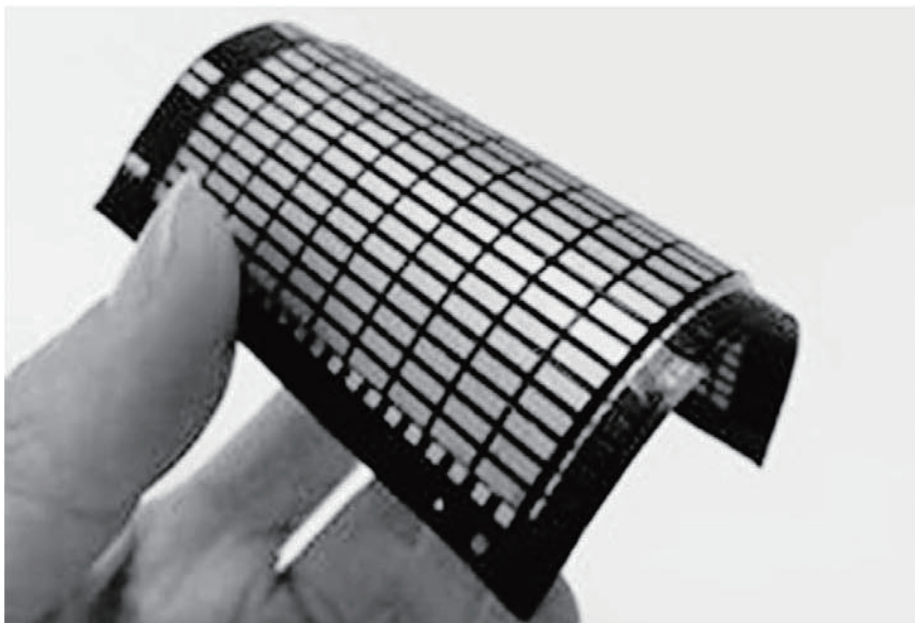


自立電源システム デモキットを提供 ダイヤゼブラ電機

電源ユニットやインバーターなどを手がけるダイヤゼブラ電機は、Eサーモジェンテック（南部修太郎代表取締役、京都市南区）が開発する熱電発電モジュール「フレキーナ」Ⅱ写真Ⅱを組み合わせたIoT（モノのインターネ



ット）向け自立電源システムをデモキットとして提供し始めた。顧客の要望に合わせて、フレキーナと電源、無線センサーと組み合わせて提供し、製造現場などでの活用を見込む。

フレキーナは、極薄で湾曲自在なフレキシブル構造が特徴。工場などの熱源パイプに装着し、排熱を電気エネルギーに変換する。現在、IoT用無線センサーの電源には電池や電力配線が使われているが、フレキーナを使えば電源が要らなくなる。

同社は、幅広いIoT機器の電力ニーズに対応するため、数ワット〜数十ワットの出力をカバーする4種類の電源回路ユニットをEサーモと共同で開発した。将来は自動車や社会インフラにも応用していく考えだ。

日刊自動車新聞社が記事利用を許諾しています。